

### ●広葉樹林造成の背景

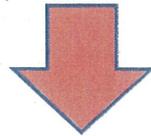
- ・市内の人工林(スギ・カラマツ)は戦後植栽され成熟しつつあり、多くの森林が伐採の時期を迎えているものの、価格の低迷により、伐採後の再造林費が捻出できない状況である。
- ・1㎡あたりのスギやカラマツより広葉樹が高値で取引されている。  
(家具材、薪等)

### ●目指す状態

- ・天然力の活用や植栽・地拵えなどの補助作業などを行い、公益的機能が高い広葉樹林を育てることができる技術の確立が必要である。

### ●事業の取組

- ・複数のモデル地において、広葉樹林化へ向けた施業方法等を確立するため、大学等の専門機関と連携し、調査研究を行う。



平成29年度より事業を開始

1

## 事業の内容

### ●平成29年度の事業内容

- ・平成29年春、長野市門沢地籍にある市営林約1.6ha、カラマツ57年生の林において立木販売により皆伐を実施。その後、広葉樹林造成モデル地とする。
- ・同年7月、モデル事業地において、地拵え・下刈りなどの更新補助作業を行う個所と、天然力に任せ手を入れない個所に分割し調査プロットを設置する。
- ・同年8月、長野県林業総合センター、長野地域振興局林務課、林業事業体、管内市町村、森林ボランティア団体の技術者向け検討会を実施し、8月23日には、林業振興専門分科会による現地視察を実施した。
- ・9月23日(土)には、広葉樹ワークショップと題して、一般市民の参加によるモデル事業地の笹刈の整備、自然観察会・薪づくり・木工クラフトなどの体験会を実施した。

2

## 平成30年度の事業内容

- ・本年度、新たにモデル事業地を設置する予定であり、現在予定地の選定を行っている。
- ・8月18日(土)には、広葉樹ワークショップと題して、一般市民の参加によるモデル事業地の笹刈の整備、自然観察会・薪づくり・木工クラフトなどの体験会を実施する。
- ・新たなモデル事業地が決定次第、大学や専門機関等と連携し調査・研究を行い、今後、私有林における天然更新手法を提案していく。

3

## 平成31年度以降の予定

- ・当事業については、平成29年度より、一部着手しているが平成30年度から新規事業として、当面5ヶ年の事業として実施する。
- ・市内において、標高や地形・伐採前の樹種・林内の状況など条件の違う場所において複数のモデル地(全4ヶ所程度)を設定し、広葉樹林化へ向けた施業方法等を確立するため、大学等の専門機関と連携し調査研究を進め、私有林における天然更新手法を確立する。
- ・広葉樹ワークショップを開催し、一般市民の方々を対象に当事業のPRを行うとともに、森林整備や自然観察会・クラフト体験などに参加してもらい、森林・林業に興味を持ってもらえる事業を実施していく。

4